

◇第2回若手技術者セミナー◇

地質調査業も最近では他の建設業と同様に若い人達に敬遠されている業種の一つである。この為協会では現在地質調査に携わっている人達（特に現場代理人とオペレーター）の素直な意見を聞き、若手技術者の育成及び技術の高度化など今後の協会活動方針を探る為、下記要領にて第2回若手技術者セミナーが開催されました。

期 日：平成3年1月11日（金）～1月12日（土）

場 所：青森市浅虫温泉「南部屋」

参加者：23名

式次第：1. 東北地質調査業協会技術委員会

和島委員長挨拶

青森県さく井地質調査業協会

阿部会長挨拶

2. 講演「地盤の検査技師の現状と生き方」

講師 八戸工業大学教授

諸戸靖史先生

3. 座談会－パネルディスカッション

○ パネラー 応用地質㈱

安部五郎氏

復建技術コンサルタント㈱ 山崎英男氏

技術委員会副委員長 吉川謙造氏

○ テーマ 1) 現場代理人とオペレーターの立場から

2) 現場代理人とオペレーターのコミュニケーションについて

3) 業界の将来性について



和島技術委員長の挨拶



セミナーの様様

翌日のパネルディスカッションで各出席者から活発な意見が出ましたのでこれは思われる要点を簡条書にてご報告いたします。

◇現場代理人とオペレーターの立場から◇

- 土曜・日曜の休日の問題、出来るだけ休日は取るようにしたい。
- オペレーターに日報を作成してもらうが、土質の状況、泥水の挙動等最小限の事項の記入が必要だが柱状図まで書けるようになってもらいたい。
- オールコアボーリングは場合によっては必要ないのではないか。

◇現場代理人とオペレーターのコミュニケーションについて◇

- 現場代理人が新人の場合、オペレーター又は上司に対して口が重い。
- 現場代理人の中には調査の内容、目的を理解していない場合がある。特に外注になるとコミュニケーションの不足が顕著になる。
- この種の集まりは、青森では仲々ないのでオペレーター同士が知らない。技術的な内容ばかりでなく茶飲み話のような雰囲気でもよよいと思う。

◇業界の将来性について◇

- 若いオペレーター、現場代理人からこの業界にこのまま居てよいのかという質問を受けた場合返答に窮した。
- 自分の子供に今の仕事を継がせるかと聞かれた場合自信を持って継がせるとは言い切れない。

この外に、現場へ始めて入る時の初歩的な注意点、原位置試験の講習、報告書の書き方など数々の質問があり、パネラーからそれぞれ適切な助言がありました。

今回の主な目的である現場代理人とオペレーターの関係に関して話し合いと理解、年輩者から若い人へ引き継ぐ技術などを確り教えるべきなどの意見が出され非常に有意義なパネルディスカッションでした。



パネルディスカッション



懇親会風景